

前回（第1回）意見への対応について

資料2

新大学のグランドデザイン

	意見	岐阜市の考え
1	現行基本計画に掲げるグランドデザインは大切にしたい方がよい。【斉尾委員】	新大学（新学部）のグランドデザインは、現行の基本計画のグランドデザインを継承し策定した（資料3・7～10ページ）。
2	市として公立大学をどのような存在にしたいのかを整理する必要がある。【杉山委員】	資料3・7～10ページにおいて、新大学（新学部）のグランドデザイン（新大学（新学部）の必要性和設置の意義、基本理念、全体像等）を記載した。
3	今回の改定に至った背景が国の方針によるものであり、市の意思が見えにくい印象を受けるため、市として公立大学をどのような存在にしたいのかという考え方が最も重要である。【斉尾委員】	
4	岐阜市として公立大学をどのように位置付け、ブランドとしてどう発信していくのかを検討する必要がある。【吉田委員】	
5	岐阜薬科大学と一体となることについて、基本計画の中でどのように位置付けるのか整理する必要がある。【杉山委員】	
6	公立大学において、岐阜薬科大学がどのような役割を果たし、貢献していくのかを明確にする必要がある。【杉山委員】	
7	岐阜薬科大学の専門性と市立女子短期大学の伝統をどのように融合させるかが重要である。【杉山委員】	
8	市の政策の中で大学をどのように位置付けるのか検討する必要がある。【杉山委員】	
9	将来的には学部の改編等も考えられることから、公立大学そのものを市政の中でどのように位置付けるのか整理する必要がある。【中田委員】	
10	薬学部との連携という観点から、市として健康・福祉分野に関する何らかの宣言を行うことも考えられる。【中田委員】	
11	大学のリソースを市民が活用できることも重要であり、市民に「自分たちの大学」という意識を持ってもらえるとよい。【吉田委員】	充実したリ・スキリング、リカレント教育の提供など、積極的な地域貢献を実施するとともに、市立大学として、学生や市民が集う開かれた大学づくりを通じて、市民に選ばれる大学を目指す（資料3・9ページ）。
12	大学院の設置も検討されたい。【河野委員】	新学部の大学院については、研究力向上に向けた取組を図りつつ、小規模から開始する検討を進めることとしている（資料3・10ページ）
13	ふるさと納税なども活用し、大学の魅力や特色を発信できるとよい。【吉田委員】	ふるさと納税等の市の施策との連携が可能であることは、市立大学としてのメリットであると認識している。大学の魅力発信の手段として市の施策との連携を検討していく。

教育研究の内容

	意見	岐阜市の考え
14	地域をフィールドとして、課題に対して仮説を立て、解決へと導くことのできる人材を育成してほしい。	新学部においては、現基本計画における人材育成の目標を継承し、都市全体をキャンパスとした実践的な教育を通じて、課題発見・解決能力を有する地域社会及び経済で即戦力となる人材を養成する。
15	市は多くのデータを保有しているため、教育や研究に活用できるとよい。【吉田委員】	新学部の教育研究に市や両大学が有するデータを活用していくことの有用性については、委員と認識を共有している。今後、教育内容を具体化していく中で、検討していく。
16	データサイエンス教育は、自然科学分野に限定せず、文系分野やまちづくりなど多様な題材に活用できる視点を取り入れてはどうか。【棚橋委員】	今後、教育内容を具体化していく中で、検討していく。
17	デジタル人材育成の担い手へのニーズは高まる。新学部でデジタル分野を教える教員を育成されることを期待する。【棚橋委員】	

18	工学や数学の知識だけでなく、地域や社会の課題に対して提案ができる人材を育成してほしい。【吉田委員】	改定案では、教育の特色として、「社会科学系（文系）の学びを教養教育の共通基盤として取り入れ、専門分野の枠を超えて幅広い知見を身に付け、多面的な分析や発見から創造までの学びを提供する文理融合による教育・研究を展開する」としており、産業界をはじめとして求められる人材を育成する。（資料3・11ページ）
19	経済界としては、革新的な発想ができる文理融合型の人材を求めている。【加藤氏（招聘者）】	
20	経営学などは教養・共通科目として位置付けてほしい。【加藤氏（招聘者）】	
21	今後5～10年後のアントレプレナーシップ教育は変化していくことが考えられるため、柔軟な対応が必要。【河野委員】	教育研究の内容について、開設後も環境等の変化に合わせ柔軟に対応していく。
22	専門技術を身に付けるだけでなく、岐阜市の歴史や文化を大切にしてくれる理系人材を育成すべき。【斉尾委員】	岐阜市に愛着を持って地域で活躍する人材の育成は、岐阜市の公立大学としての重要な役割であることは、委員と認識を共有しており、そうした人材の育成につながるよう、教育内容を検討していく。
23	市の公立大学としては、社会科学的な視点から市の歴史や文化を大切にする人材も育成すべきである。【斉尾委員】	
24	「岐阜学」を通じて岐阜市を学ぶことは重要であり、しっかりと強調した方がよい。今後、国の方針が変わったとしても残り続ける特色である。【斉尾委員】	
25	社会人の学びについても検討してほしい。【斉尾委員】	高度な研究力や教育力を持った知の社会基盤として、市民や企業経営者、従業員に対してリカレント教育の機会を提供していきたいと考えており、具体的な実施組織も含め、今後検討していく（資料3・16ページ）。
26	社会人を受け入れる仕組みがあることは評価できる。【吉田委員】	

キャンパス・立地、費用

	意見	岐阜市の考え
27	三田洞キャンパスに学生を呼び込むことができるのかという懸念がある。【杉山委員】	三田洞キャンパスの活用は、岐阜薬科大学のブランドイメージの継承や、部活動などを通じた、学生同士の交流が可能となるといったメリットがある。また、大学生を対象とした調査によると、受験する大学・学部を決める際に最も重視した点は「興味がある学問分野があること（52.1%）」であり、次に重視した点が「入試難易度が自分にあって（42.0%）」との結果であった（資料3・20ページ）。こうした結果も踏まえ、志願者確保に向けては、教育研究の質の向上を図り、魅力ある学部づくりに努める。
28	郊外に教室があることについては厳しい面もあるかもしれない。【吉田委員】	
29	キャンパス整備については、移転後のキャンパスの利活用も含めて、じっくりと検討すべきである。【斉尾委員】	新学部の開設に伴うキャンパスの利活用については、引き続き慎重に検討していく。
30	図書館との一体的な整備ができるとよい。【吉田委員】	図書館との一体的な整備の予定はないが、市立図書館など市有施設との連携について検討していく。